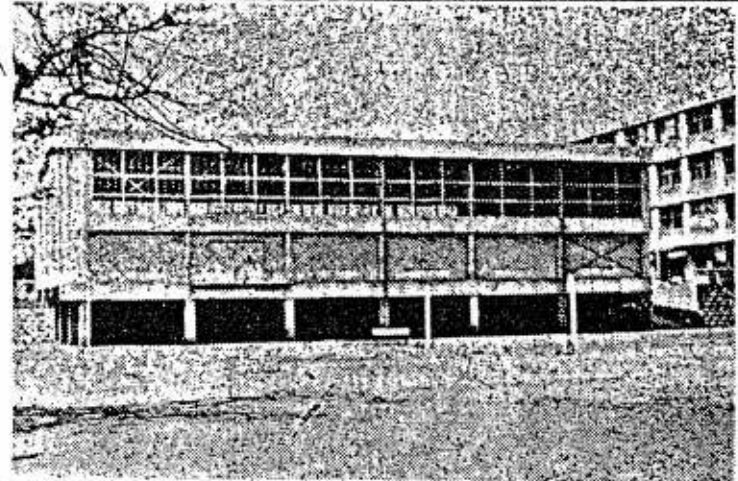


体育館完成



去年の九月に着工された体育館は、三月二十八日事実上完成し、あとは五月三十日の落成式を待つばかりとなりました。

館内は最新式の設備を整え、都市内でも優秀なものの一つですが、ここにその全貌を紹介しましょう。

メインコートが一つ、サブコートのバスケット、バレー、バトミントンコートがそれぞれ二つづつ床に配置され、二コートが一度に使用できます。そして、中央には棒球ネットがはられるので、互いに干渉されずに練習ができます。その他、女子のダンス授業のためのダンスパーと大きな鏡、そして鉄棒、肋木も揃っています。また電動式タイマーを取り付けたので試合が順調に行われるでしょう。

体育館もでき、来年あたりはプールもできる予定とか。これからの深沢高校がさらに大きく伸びて行くことを期待したいと思えます。

進路相談会

期待される大学生像

深沢高校同窓会理事会では当会規約第八条に基づいて、深沢高校に貢献する主旨で「進路相談会」を昨年四月に設立致しました。

目的

後輩達が大学に対して認識を深めるといふ事は、教育が国家の将来を決する重大問題である以上、欠かせぬものであると信じます。同窓会「進路相談会」は大学のカラ、授

業内容課外活動等や大学進学の際の志望校及び、学部選択の味と香りを知らせます。

活動内容
来春の大学入試を控え、あふれる人間性、明日に生きる科学を大学に求めて、日夜奮闘している後輩諸君に、直接学生の眼を通して大学の紹介を行ないます。機関誌等も発行致します。

深沢だより

深沢だより
クラブ活動報告

○ハンドボール部がクラブの仲間入り。

○小倉百人一首、茶道が同好会としてスタート。

○サッカー部が四十二年十一月に東京都高校サッカー新人大会第四地区において優勝。

今春の大学合格者一覧

(カッ内女子)

国立	浪人	現役	私立
東北大 2			早大 27
千葉大 1			慶大 16
東工大 3			明治大 10
東教大 1			法政大 11
一橋大 1			中央大 10
横浜国大 2			青学大 11
東京医歯大 1			上智大 8
都立大 1			東京理科大 8
横浜市大 2			津田塾大 2
他国立大 10			日本女大 2
			短期大学 35
			成蹊大 9
			学習院大 3
			立教大 7
			日本女大 5
			他大学 35
			短期大学 22
			成蹊大 4
			学習院大 2
			立教大 1
			日本女大 1
			他大学 1
			短期大学 51

同窓生の

大学訪問(その一)

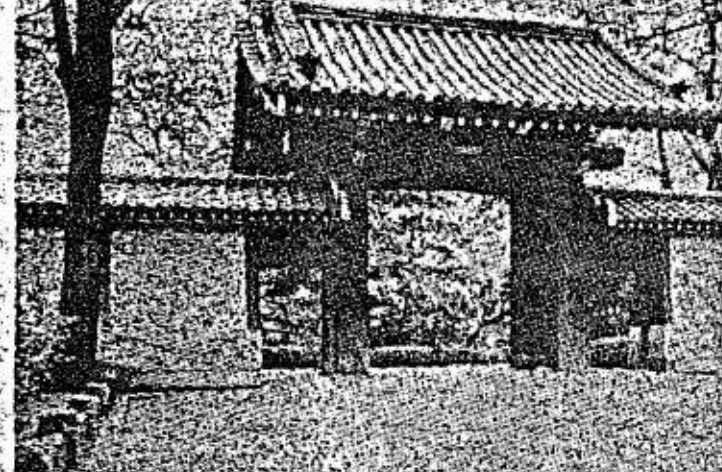
米田 恵(二期生)

聖心女子大学の教育目的は、「めまぐるしく変動する現代社会にあつて確固たる信念のもとに、時代の真の要求を洞察して人類社会の発展に奉仕する意欲にあふれた女性を育成するところにある。四年間の学問研究と大学という共

同体での人生経験とを通じて学生は人間形成の土台を自ら創り出す。」となつています。この様な目的を達成するために小教教育の方針を持って全人格的陶冶が重視されています。

さて、実際にこの大学で生活してみると、今まで過した高校生活とは全く異なっています。勉強の面からみると予想に反して大変です。というのは本を絶えず読んでいなければならないのです。夏季冬季の休みの宿題も本四十冊と多

美智子妃殿下の学ばれた聖心女子大学



く、また、英語の講義はすべて英語で行うので英会話に慣れている。国立公立高校からの入学者は皆、フーイーというあり様です。専攻は入学時に一応分けられますが、一年次の成績により、一年の終りに決定され、希望があれば他学科へ移ることが出来ます。

生活そのものは、私立高校からの学生がほとんどなので、言葉使い、礼儀等が独特で、「聖心言葉」というものさえある程丁寧です。それにキリスト教の学校であるので、人間性に対する深い洞察と愛のもとで、少数教育を堅持し、シスター(修道女)の目が学生一人一人に注がれ、しつけが大変厳しいです。(女性には必要なことだと思います。)もう一つのこの大学の特徴は四年間の学生がよくまとまっているということです。これは昼休みを利用しての集会、つまり月曜の学長のお話、火曜の全学生が参加している社会奉仕クラブの集会、金曜の自治会の集会があるからです。これらの集いは全学生が参加しなければならぬ規則になっています。クラブ数はあまり多くはありませんが、テニス、自動車、バスケット、バレーボール、卓球、英語、写真、アート、手芸、グリーンクラブ等が毎週活動し、キャンパスには若い活気が満ちあふれています。

お嬢様学校と言われればそれまでですが、中で生活してみても感じる事は目に見えぬが躍動している何か活発なものがある様な気がする事です。そして、楽しく、またおしゃやれな女性の多い大学です。

広場

同窓会と私

一期 内藤周子

同窓会も発足以来三年目になるうとしています。初めの年は、太陽のキラキラ輝く夏の日から活動開始となりましたが、二年目と今年、おだやかな風と一緒にフワフワ空に飛んでいきたくなるような、そんな解放感を感じさせる陽気の中で、同窓会理事、評議員の活動が開始されました。

深沢のバス停から学校までの桜並木の下を高校時代のことなど思い出しながらいそいそと理事、評議員が集まる。今年度の新しい評議員、高校時代顔も合わせたことがなかったような全く知らない同志が、深高卒ということだけで何か連帯意識を感じ、親密感を憶える。同窓会も三年目に入ったせいも、総会を迎えるべく一様の仕事も以前よりはスムーズに動く。こうした雰囲気の中で、フツ微笑みたくなるような広大な構想や、いずれば会員の中の出世組からドッサリ寄付が届くのではないかと想像し嬉しくなったり、今年の総会ムードをどうすべきかなどということになる。こうして今年の総会は規約第二条の如く教養高いものにしようということになった。こうして大まかな計画が立てられ、

各理事は会計・総務・渉外・広報に分かれ、詳細な計画が立てられ活動をリードしていく人、目立たない沢山の雑務につく人、仕事は種々雑多。仕事をしながら上手な買い物のコツ、楽しいムードでの仕事のさせ方、交渉の仕方を覚えたり、今まで知らなかった人の魅力に驚いたり、歴史がないだけに努力すればそれなりのもので得られる。

高校時代は妙に自分と学校とのつながりを意識したことのなかった私もこうした深高同窓会の仕事をする中に、しみじみそれを感じることができるとは私をひきつける何かが同窓会にあるのではないかと思います。

みちのく便り

二期 大藤英明

前略、今やと洗濯を終え、書いています。洗濯がいかにお大変か解るかい独身はつらいヨ！この間など、洗濯物をためすぎて着る物が無く、体操シャツでごまかし登校した。こんな状態で早三週間、近頃になってやっと在京中の冷静さを取り戻し、道行く女性も落ち着いて観察できるようにになった。だがやはり孤独はつらい、寂しい所に住んでいるので、夜になると余計にしみる。たくさん空の裂け目を見ているとつくづく田舎にまた来たなあとと思う。こちらはまだまだ寒い、日中でも八度なんてこともある。冬の着物をほとんど持

って来なかったので震えていた。しかし今日は雲一つない、すばらしい天気。というわけでクラブの花見コンパ（飲酒会、又もや下手なくせしてサッカー部に入部、練習は非常にきびしい！月曜だけ休みで、日曜までかり出される）三神峰という仙台で一番の桜の名所（実に素晴らしい所だ、理学部の原子力研究所がある）東に太平洋を見下し、西に蔵王連山を眺める。小高い山の上で芝生にすわり、頭上に満開の桜を見上げながら、飲まされたこと、飲まされたこと、上級生が集団でおどかしながら、むりやり口を開かせて飲ませる、今もまだ頭が痛い、飲む程に酔う程に、大声で下品な歌を公衆の面前で歌う者多数、（オレは違うよ）旧制二高のパンカラ伝統のためか、スザマジコンパでチョイト想像できまい、東京ではとてもあんなことはできない。そんなわけで少し話し相手もできさびしさがまぎれた。

東北大学は学生の約80%が東北六県出身だそうで方言がひどく、標準語で話すのが少々気がひける。教師からして仙台弁で授業をするのが多い。第二外国語は露語をとった。勉強はまだあまりしていない。今日も疲れてしまったので明日の一時間はさぼるつもり。

追伸
酒を飲むと人間なんてのは皆同じだ。酒を飲むなんてのは欲求不満の代償行為さオレはあまり好きでない。

総務部より一言

同窓生で氏名、住所、電話、現況（大学、会社等）の変更した会員は各クラス評議員又は左記まで必ず連絡して下さい。特に住所変更の届け出のない場合は会員名簿、会報が郵送できませんので協力下さい。

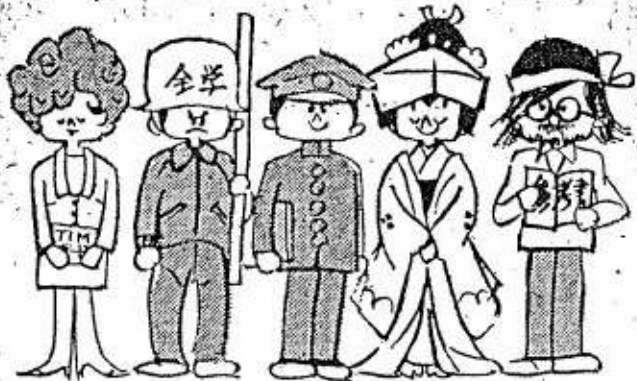
大竹美佐子（総務部）

一年間を振り返って

二期 門山美恵

私は都立大学に入学し退学そして今年東京医科歯科大学に入学した。「何故？」

昨年私が都立大に入学したときまわりの人々は一様に「オメデトウ」と言って下さった。確かに自分の力を考えると積極的にそう考へるべきであったろう。しかし私は寂しかったし、つらかった。数



道は各々、違えども……

学科ではどうしても医師らしき者にはなれないのだから。しかし浪人はイヤだ。お友達がどんどん美しい人に成長する時私一人が薄汚れた浪人になるのはいやだ。

しかたない。いつわりの仮面をかぶり都立大に通う事にした。勉強しに？ 単に四年という空白をうめるだけの為。

この様に通う私と真剣に何かを求めて通う人との溝は大きい物だった。そんな自分に対するひげ目から自由に話す事ができなくなっていた。いくら仮面をかぶったので、始業ベルが鳴ってからの戸からこっそり入り、終業のベルと共にこっそり脱け出す。たった一時間の昼休みも一人で過すには余りに長い。一人で食べる昼食の味気なさから何日も昼食を食べない、私のまわりにはベトナム、平和、恋……ありとあらゆる会話があふれている。でも私はどれ一つにも仲間入りできない。卑怯者である自分に対するひげ目から……私は初めて苦しんだのだ。多くの素晴らしい人々に囲まれながら一人ぼっちであること——

大衆の中の孤独。これ程つらい事はなかる。

日に日にまわりの人々と私との溝は深まり、私は無口になっていった。こんな私には灰色受験勉強——一人きりの孤独がバラ色に見えるのである。そして十月、とうとう休学し、浪人となったのである。

そして四月無事東京医科歯科大

学に入学することができた。まわりには丁度昨年私の様に、東大理Ⅱに失敗した多くの人がいる。それでも私は嬉しい。医科歯科大の教養の講座は都立大よりはまた貧弱である。それでも嬉しい。

この一年痛感した事。幸福はあくまでも主観的な物、私の幸福は私だけのもの、それを得られるのは私だけ。あなたの幸福がどんなに素晴らしいとしても私は欲しくなく。あたりまえの事であるが本当にそう思った。

先輩に無理に飲まされた一口のビールのがさは私のもの。

理事会広報部では同窓会会報第二号の原稿を募集しております。

随筆・小説・論文・詩何んでも結構です。

十月末日迄に原稿を提出して下さい。

送先
水越 隆（広報部）

締切り

編集後記
初めての体験というものは何にしてみても実に大きな意味を持っている。編集者各自にとって、創刊号発行の喜びは格別だ。この新聞が同窓生の相互理解に貢献できれば幸いである。

編集者
水越・内藤・野村・相沢・中村

会報二号原稿募集